

当資料は、W. L. Gore & Associates, Inc.が作成した英文レポート
「GORE FABRICS RESPONSIBILITY UPDATE 2018」を日本語に翻訳再編集したものです。
正式言語は英語であり、その内容及び解釈については英語が優先します。
英文レポート：https://www.gore-tex.jp/sites/default/files/docs/Gore_Fabrics_RU_2018_FINAL.pdf

ゴア ファブリクス レスポンシビリティアップデート 2018



目次

ゴアファブリクスの目標PFC _{EC} 撤廃への重要な進展	P 3
リサイクル材・原液着色ファブリックの販売を拡大	P 6
「マイク・ファッショニ・サーキュラー・イニシアティブ」へ参加	P 8
サステナビリティの情報共有のためのHigg Indexの採用に関して	P 9
試験的に実施した「ウォッシュ&ケアプロジェクト」	P 10
ゴア社が「Worn Wear Tour」をサポート	P 11
持続可能な調達のための新ライフサイクルコスト試算手法	P 12
ゴア社の製造拠点がISO14001の認証を取得	P 14
ゴア社の社会的責任ガイドライン（GSR）プログラムの進捗	P 15
2018年従業員によるボランティア活動	P 18
ゴアテックスアスリートステファン・グロバッツ	P 20
ゴアテックスアスリートグレッグ・ヒル	P 21
ゴア社について	P 23

エディトリアル

2018年はゴア社ファブリクス・ディビジョン（以下、ゴアファブリクス）にとって注目すべき年でした。新ブランド「ゴアテックスインフィニアム™プロダクト」をスタートし、環境負荷をさらに軽減すると同時に高性能で耐久性に優れた製品の開発を着実に前進させました。

現在と未来を見据え、2017年には2023年末までに消費者向け製品の全製造工程から「環境への影響に懸念のある低分子量PFC化合物」（以下、PFC_{EC}）を撤廃するという目標を掲げました。PFC_{EC}が含まれていない（以下、「PFC_{EC}フリー」）耐久撥水（DWR）加工を施した初のゴアテックスラミネートの発売です。この成果は、お客様や主要なステークホルダーから高く評価され、またPFC_{EC}フリーのメンブレンを用いた試作品を実証実験に投入することで、一部遅れはでているものの、次の目標も達成できると確信しています。2023年までに消費者向け製品の全製造工程からPFC_{EC}を撤廃するという当社の全体的な目標は変更されていません。

今回は、Higgとの取り組みの進展、製品におけるリサイクル材・原液着色染料の使用の促進、およびテクニカルオリエンティッドファブリクス（TOF）の新たなライフサイクルコスト試算手法についても報告いたします。試験的に実施した「ウォッシュ&ケアプロジェクト」の仕組み、「マイク・ファッショニ・サーキュラー・イニシアティブ」に参加した理由、そしてISO14001認証を取得した工場の取り組みを紹介します。さらに、ボランティア活動を始めたり継続的に取り組んだりしている従業員、環境を守りながら高いパフォーマンスを発揮するという当社の信条と共に2名のゴアテックスアスリートもご紹介できることを誇りに思います。

最後に、本アップデートにまだ含まれていない進行中のプロジェクトについて、少し触れたいと思います。私たちは重要な社会・環境問題の解決にマテリアルサイエンスの進展がどのように貢献できるかという点に注力して参りました。より持続可能な産業実現に向けて解決策を生み出すために社内組織を目標に適応させ、多くの社外の業界パートナーとの協業に努めています。

まずは、2018年版レスポンシビリティアップデートをご覧いただき、2019年のさらなるニュースにご期待いただければ幸いです。

バーナード・キール（サステナビリティ・リーダー）



ゴアファブリクスの目標「一般消費者向け最終製品のラミネートからPFC_{EC}を除去」への重要な進展

2017年2月、ゴアファブリクスは、グリーンピース社と活発な実りある議論を展開し、一般消費者向け製品の製造工程から「環境への影響に懸念のあるPFC（PFC_{EC}）を排除するための目標とロードマップ」を発表しました。これにより、2023年まで数年間にわたるゴアファブリクスの研究開発（R&D）プログラムが設定されました。

2018年、ゴア社はPFC_{EC}撤廃の目標を達成するために数百万米ドルを投資しました。これまでに、当社の何百人もの献身的な従業員らが重要なプロジェクトに何千時間もの労働時間を費やしてきました。

PFC_{EC}フリーの新しい耐久撥水（DWR）加工の導入

これらの取り組みの結果、ゴアファブリクスは大きな進歩を遂げました。2018年初め、当社は顧客に向けてPFC_{EC}フリーの新しい耐久撥水（DWR）加工を施した2層のゴアテックスファブリクスの出荷を開始しました。また、PFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工は、2018年秋冬シーズンのGORE® WINDSTOPPER®ラミネートの大部分に導入され、2018年には、ゴアファブリクスの一般アウトドア製品ラインアップの50%以上に採用されました。2018年11月ゴアファブリクスは、2019年秋冬シーズンにおける新しい3層のゴアテックスファブリクスの小売店での販売、および、新たな高性能PFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工の採用を発表しました。

このPFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工は、採用にあたり、徹底的なスクリーニングとフィールドテストによって、スキーやデイハイキングなどの一般的なアウトドア活動に求められるパフォーマンスに対応することが実証されています。

また、当社はPFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工の情報発信を皮切りに、各ブランドやリテールパートナーとともに新しい製品ラベルを開発・導入し、消費者が店舗に並ぶ製品を通じて当社の取り組みに関する情報を得られるようにしました。



ウィンドウの装飾、ポスター、下げ札から、消費者が小売店でPFC_{EC}フリーの新しい耐久撥水（DWR）加工が施されたゴアテックス製品を識別しやすくなります。



焼却に関する科学的な研究が完了し、ピアレビュー中

ゴアテックス製品の廃棄による環境への影響を検証するため、ゴアファブリクスはドイツのカールスルーエ工科大学の科学技術研究所に委託し、試験的なサイズの焼却工場でゴアテックス製品の重要なバリアー材であるPTFEを含む製品の燃焼に関する研究を行いました。

典型的な焼却状況におけるPFC_{EC}の潜在的排出を評価する研究計画案に対し、あらゆる科学関係者より意見が寄せられました。

検証期間を経て、2018年2月にカールスルーエ工科大学で実験が行われ、実験見本は独立第三者機関によって分析されました。

この研究はすでに完了し、カールスルーエ工科大学と当社は科学雑誌に科学論文を投稿しました。現在論文は審査中ですが、掲載されるものと確信しています。



© copyright by Karlsruher Institut für Technologie

ジョン・ハンマーシュミット（サステナビリティ テクニカル チャンピオン）へのインタビュー

ゴア ファブリクスにおけるPFCに関する目標には、製品の製造工程からのPFC_{EC}の撤廃も含まれていますが、開発状況はいかがですか？

ジョン・ハンマーシュミット：PTFEの重合工程において重合助剤としてPFC_{EC}がこれまで使用されてきましたが、現在、そのような重合助剤を使用しないPTFEの量産化を検討し、一定の進捗がありました。現在重合助剤のサプライヤーと協力して計画を達成するために日々努力をしていますが、若干の遅れが生じています。技術的なブレークスルーがあったにもかかわらずPFC_{EC}フリーの新規高機能PTFE素材の商品化に当初の想定以上に時間がかかることが分かりました。そのような状況においても一定の進捗もあり、目標が達成できることを確信しています。

また、厳しい条件下での使用に対応したPFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工の開発においては引き続き大きな課題が残っていますが、協力企業との緊密な連携により、目標達成に向けて開発は順調に推移しています。



フッ素系でないメンブレン素材も探しているのでしょうか。

ジョン・ハンマーシュミット：はい。ePTFEソリューションに加え、フッ素系ではないメンブレン素材を積極的に探しています。あらゆる可能性の中から取捨選択し、現在、最も有望な方法に集中して開発に取り組んでいます。技術的不確実性には対処しましたが、まだ取り組まなければならぬ技術的な作業が残っています。

それは2023年までにゴア社の一般消費者向けファブリクス製品の全製造工程からPFC_{EC}を排除するという全体的な目標にとって、何を意味するのでしょうか。

ジョン・ハンマーシュミット：技術的な課題があるため、2020年までの目標達成に必要とされる商業力や規模にまだ十分に到達できていません。しかし、2023年末までにPFC_{EC}を全廃するという最終目標を達成できることは確信しています。我々はグリーンピース社と開発状況を共有し、グリーンピース社もその進展を概ね評価するとともに、一部の遅れの原因に関しても理解し、当社のPFC_{EC}撤廃プログラムを引き続き支持することを表明しています。

ゴア ファブリクスのPFC_{EC}撤廃目標の達成に向けた取り組みについて、カスタマー、最終消費者、幅広い一般市民へ確実に情報を届けるために、その進捗状況を定期的に更新しています。最新の進捗報告書は、www.gore-tex.com/technology/responsibility/pfc-goal（英語）でご覧いただけます。

リサイクル材及び原液着色ファブリックの使用を増やし、 節水およびCO2排出量の削減に貢献

ゴア ファブリクスは、PFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工の新製品を導入したほか、2018年には環境負荷を軽減し、一般消費者向けゴアテックス ガーメントのポートフォリオをより持続可能なものにするために2つの重要な前進を遂げました。

ゴア社は7月、PFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工を施しリサイクル材を使用した表生地を使った新しい2層構造のゴアテックスジャケットを発表しました。これはゴア ファブリクスのサステナビリティ戦略における重要な取り組みであり、2018年秋冬シーズンにはすでに10種類以上あったラミネートの種類が、2019年秋冬シーズンにはほぼ3倍に増えました。

リサイクル材の使用により、埋立てや焼却に回されるプラスチック廃棄物の量が削減されます。現在リサイクルナイロンは廃棄物の中から未使用のものを原料として調達し、リサイクルポリエステルは使用済みペットボトルから原料を調達しています。

2018年11月、ゴア ファブリクスは2019年秋冬シーズンの展開に向けて準備中の、第2のイノベーションを発表しました。これには、表生地にPFC_{EC}フリーの耐久撥水（DWR）加工を施した汎用性の高い新しいゴアテックス ファブリクスや、再生ポリエステルを使用した原液着色ファブリックのバッカーが含まれます。

「当社は、環境負荷の軽減、また性能面では通常より発色を長持ちさせる耐光堅牢度という2つの大きな強みを持つ原液着色ファブリックのシェアの拡大を目指しています。

また、ライフサイクルアセスメントの研究から知られているように、耐久性のあるアウターウェアを長期間使用することは、環境負荷を低減するためできる最適な手段です。」

トマス・キーブラー（アプリケーションエンジニア）



新製品は原液着色とリサイクル材のメリットを兼ね備えており、2019年以降、18種類の原液着色のラミネートがさらに加わる予定です。当社は、アウトドアアパレル製品の環境負荷を改善し、快適性と保護性を提供する高機能ファブリクスの開発を続けています。

新しい3層構造のガーメントは汎用性に優れ、キャンプ、ハイキング、冒険旅行、ゴルフ、スキー、その他のアウトドア活動など、アーバンアウトドアや一般的なアウトドアに幅広く対応します。

当社は1年以上かけて、サプライチェーン・パートナーと共に、リサイクル材と原液着色による過去最軽量の糸を新しく開発しました。約4000本の再生ペットボトルから、1000メートルの新しい裏地が作られます。

原液着色は、従来の染色技術とは異なるシンプルで優れた技術です。原液着色工程の間、紡糸工程前のナイロンまたはポリエステルペレットなどの原料に染料を混合します。

製造された糸は永久的にしっかりと着色され、織物に織り込まれます。従来のジェット染色に比べて、原液着色の工程では地球温暖化係数（GWP）を約96%、水の使用量を約88%削減できます（Higg Material Sustainability Indexによる）。





エレン・マッカーサー財団の「メイク・ファッショント・サーキュラー・イニシアティブ」に参加

2018年5月、ゴアファブリクスは、エレン・マッカーサー財団の「メイク・ファッショント・サーキュラー・イニシアティブ」へ参加し、約20社のグローバルブランドと協力して循環型経済の原則を踏まえ、繊維産業の新たな道を切り開くことを発表しました。

2017年5月のコペンハーゲン・ファッション・サミットで紹介された「メイク・ファッショント・サーキュラー・イニシアティブ」には、ブランドを含むファッション業界のリーダーだけでなく、都市、慈善活動家、NGO、イノベーターなどのリーダーが一堂に会しました。参加者は、コラボレーションとイノベーションの促進を目指し、以下の3つの主な戦略のもと、繊維業界のための新しいシステム構築に協力することを約束します。

1. 服を長期間使い続けるビジネスモデル
2. 再生可能で安全な素材
3. 古着を新しい衣服に蘇らせる解決策

「メイク・ファッショント・サーキュラー・イニシアティブ」の長期ビジョンは、高いパフォーマンス性と環境負荷の軽減を両立し、アパレル・フットウェアを含む耐久性に優れた製品を長期間使い続けることを可能にするというゴアファブリクスの目標と合致しています。

このイニシアティブに関する詳細は、
www.ellenmacarthurfoundation.org/our-work/activities/make-fashion-circular
または@circlarfibers#makefashioncircularのTwitter（英語）でご覧いただけます。

「『メイク・ファッショント・サーキュラー・イニシアティブ』に参加し、特に製品の耐久性に関する科学的知見を共有することで、我々の専門性を通じて貢献できることをとても楽しみにしています。ライフサイクルアセスメント（LCA）から、機能性衣料品の寿命が環境負荷軽減の重要な要素であることが分かっています。だからこそ、耐久性のある製品を作ることを、私たちの行動の中心においているのです。私たちは、繊維の循環経済を作るために、他者の活動から積極的に学び、刺激を受けています。」

バーナード・キール（サステナビリティ・リーダー）



ゴアファブリクスは「メイク・ファッショント・サーキュラー・イニシアティブ」に参加し、持続可能性に関する繊維産業の重要な課題を解決するために、透明性をもって一緒に取り組む主要なマルチステークホルダー・プラットフォームに積極的に貢献するという決意を新たにしました。ゴア社は、サステナブル・アパレル連合（SAC）、アメリカのアウトドア産業協会（OIA）のサステナビリティ・ワーキング・グループ、およびヨーロッパのアウトドア・グループ（EOG）の設立に参加しています。



アウトドア商品のサステナビリティ・パフォーマンスの情報をカスマーマーや消費者と共有するため「Higg Index」の採用をさらに推進

ゴア社は、サステナブル・アパレル連合（SAC）の創設メンバーであり、企業や製品のサステナビリティ・パフォーマンスを正確に測定・評価するためのツールである「Higg Index」を開発し運用しています。「Higg Index」は、様々な規模のブランド、小売業者、施設の持続可能性への取り組みにおけるあらゆる段階で用いることができる評価ツールです。「Higg Index」は、企業が工場労働者、地域社会、環境を守るために改善に活用できるように総合的な概観を提供します。



SACは現在、主要プロジェクトの一つとして、最終製品の環境への影響に関する情報源となるツールを「Higg Index」に加えることを目指しています。これは信頼性があり、また標準化されているツールであることが求められます。

2018年も当社は業界と連携してサステナビリティ・パフォーマンスの測定法・評価法の開発を継続し、消費者が詳細な情報を得たうえで購入するサポートをするため、製品ラベルやオンライン上で情報を探してきました。

ベン・ボア（製品環境フットプリントスペシャリスト）へのインタビュー

ゴア社は2018年の「Higg Index」の開発にどのように貢献しましたか？

ベン・ボア：アパレル製造の環境・社会的影響の測定においては、長年にわたりかなり進歩してきたと考えています。2018年、当社は施設環境モジュール（FEM）のバージョン3を採用し、社内プロセスへの導入を進めています。今後の製造業向けFSLM（Facility Social and Labor Module）の取り組みには期待しており、SACが目指す次の大きなステップは、ブランドが最終製品の環境負荷を測定できるようにすることです。そのためには、素材と耐久性が重要な役割を果たします。例えば、より長期間使用されるジャケットは、より短命の類似のジャケットよりも環境にとってより優れています。このツールを用いることで、これらの違いを測定することが可能になるのです。



なぜ、Higgのツール群はゴアにとって適切なのでしょうか。

ベン・ボア：「Higg Index」ツールは、企業の自社製品が環境に与える影響の透明性と信頼性をもった方法での測定、また複数の企業間、複数国間、製品カテゴリー間における比較を可能にする重要なツールです。「Higg Index」は、製品を環境・社会的視点から見るだけでなく、小売・生産設備も考慮した総合的なツールです。「Higg Index」ツールは、最終的には、消費者が購入する製品の全体的な持続可能性（製品を長期間使用することなど、自らの意思決定による環境への影響を含む）について透明性のある見解が得られるようになります。

2019年には他に何が期待されますか？

ベン・ボア：2019年は、当社とサステナブル・アパレル連合にとって画期的な年となります。サステナブル・アパレル連合は近頃、製品モジュールの完成に向けての諮問委員会を設置し、当社も参画しています。私自身、このトピックについてサステナブル・アパレル連合と協力してきた経緯があり、この重要な仕事を続けていくために、チームと再会できたことを嬉しく思います。特に当社においては、2019年にHigg Material Sustainability Index（MSI）にゴアテックス製品の重要なバリアー材であるPTFEに関する新たなデータが提出される予定です。この新しいデータは、PTFEのカーボン・フットプリントに関する長年の古い評価を修正し、より正確な最新データを用いてゴアの素材の評価を可能にするものです。

ゴアテックス製品のための「ウォッシュ&ケアプロジェクト」 をドイツとオーストリアで試験的に開始

ゴア ファブリクスのライフサイクルアセスメント研究で検証されているように、製品の耐用年数を延ばすことは、環境負荷を低減する最も効果的な方法です。また、消費者がゴアの「GUARANTEED TO KEEP YOU DRY™」プログラムを通じて返却されたゴアテックス製品を評価した結果、適切な手入れは製品の性能の耐久性に直結するという結論に至りました。ゴアテックス製品の耐用年数を延ばすために、2018年にゴア ファブリクスは「ウォッシュ&ケアプロジェクト」を試験的に開始しました。

このプロジェクトは、外部のクリーニングの専門家との協力のもと実施され、ドイツとオーストリアのアウトドア愛好家がサービスを利用できるようになっています。製品の防水・防風・透湿性を保つため、洗濯・乾燥・耐久撥水（DWR）加工の回復サービスなどが提供されます。「ウォッシュ&ケアプロジェクト」により、ゴアテックス製品の手入れが手軽にできるようになります。消費者は「ウォッシュ&ケアプロジェクト」に自身のゴアテックス製品を郵送すると、2営業日後には手入れの済んだ製品を受け取ることができます。



新品のゴアテックス製品と同様に、サービスを受けたアウトドア製品には、当社の「GUARANTEED TO KEEP YOU DRY™」プロミスが適用されます。また、サービスに満足いただけなかった場合は、無料で再度サービスを受けるか、返金を要求することができます。

現在、本サービスは試験的にドイツとオーストリアの2カ国の消費者と当社の従業員に向けて提供されていますが、成果を慎重に検証したうえで、他国での展開についても判断していきます。

アウトドア製品の寿命を延ばす上で適切な手入れがもたらす効果をより理解するため、ゴア ファブリクスは、プロによる洗濯や性能の回復により、水、エネルギー、化学薬品の大幅な節約などの環境面の利点を得られるという仮説の実証にも取り組んでいます。



「ウォッシュ&ケア プロジェクト」のサービスの詳細については、<https://service.gore-tex.de/>（ドイツ語）のホームページをご覧ください。

ゴア社が「Worn Wear Tour」をサポート アウトドア製品をより長持ちさせること

ゴアファブリクスは20年以上前からサステナビリティに取り組んできていますが、そのコンセプトの中核は、アウトドア用品のより長期的な性能維持ということです。その支援活動の一環として、2018年、米国カリフォルニア州を拠点とするカスタマーであるパタゴニア社の「Worn Wear Tour」を当社のスペシャリストが支援しました。

2017年夏、ゴアファブリクスはパタゴニア社のWorn Wearクルー向けにトレーニングと修理機材を提供し、パタゴニア社のクルーがゴアテックスガーメントの専門的な修理技術を提供できるようサポートしました。2017~2018年冬シーズンには、クルーが木造スノートレーラーでヨーロッパ各地のトップスキー場を巡り、無料でウェアの修理サービスを提供しました。彼らはまた、道具の修理方法や、それらを数シーズンにわたって良いコンディションに保つ方法を伝えました。

2013年に開始したパタゴニア社のイニシアティブは、消費者が適切な手入れと修理によって衣類の寿命を延ばすことを推奨し、衣類を買い替える必要性を下げることを目指しています。当社のライフサイクルアセスメント調査によれば、製品の寿命を延ばすことは、製品の製造に必要とされるCO2排出量、廃棄物排出量、水の使用量の削減につながるため、環境負荷を低減するためには我々ができる最も重要なことです。

パタゴニアのWorn Wearプログラムの詳細について: <https://wornwear.patagonia.com/> (英語)



patagonia®
WORN WEAR

新たなライフサイクルコスト試算手法 持続可能な政府調達を可能にする特殊なプロフェッショナル ユーザー向けテクニカルオリエンティッド ファブリクス (TOF)

2018年にゴアファブリクスは戦闘服のライフサイクルコスト試算手法を開発しました。それは、防衛省、消防、警察などの公的機関をはじめ、電力、鉄道などのインフラ関係などのプロフェッショナルユーザー向けのテクニカルオリエンティッド ファブリクス (TOF) が環境改善に向けてここ数年で大きな成果を生んだ取り組みの一つです。この新しい試算手法は、温室効果ガス排出量のコミットメントに統一して予算の維持確保や調達制作のあり方が課題となっている政府機関が、調達コストの節約と持続可能な製品の購入を達成するのに役立つことができます。

一般的に、ライフサイクルコスト試算により、エンドユーザーの要求を満たすための様々な耐久性の製品の価値に関して組織が理解を深めることができます。また、長期的にすべてのコストを踏まえてみるとかえって高くつき、「安価なものを買うと、二度買うことになる（安物買いの銭失い）」ことを実証します。

十分に活用されていないライフサイクルコスト試算の潜在的 possibility が市場調査で明らかに

ライフサイクルコスト試算は複雑で時間がかかるため、現在は一般的に非常に高額な品目の公共調達においてのみ使用されています。ゴアファブリクスは、ライフサイクルコスト試算が一般的に使われていない理由を探るため、調達時におけるライフサイクルコスト試算に関して市場調査を実施しました。

調査の結果から、ライフサイクルコストはヨーロッパ各国の衣料品を購入する際に使用できることが確認されましたが、政府機関の標準的な入札プロセスに利用可能な手法がないために、しばしば見落とされています。

社外有識者曰く、ゴア社の戦闘服は新しい手法を検証するのに適した選択肢

ゴアファブリクスは、この隔たりを埋める手法を見つけるため、ロンドンに本社を置く国際保証・検査・製品試験・認証会社インターテック社に独自のライフサイクルコスト試算手法の開発を依頼しました。インターテック社に依頼した理由は、繊維を含む幅広い業界におけるライフサイクルコストに関する豊富な知識と試験の専門知識を有しているからです。戦闘服は様々な業務で使用され、耐久性と性能が試される厳しい状況に直面するため、インターテック社は新しい手法を検証するための一つの提案をしました。



インターテック社が最終的に提案した手法は、戦闘服に共通する欠陥をよりよく理解し、それを再現するために適したラボテストを見つけ出すことに焦点を当てたものです。これは一般的な試験方法であり、例えば、典型的あるいは平均的な電球の寿命の算出する原理を実際に再現しています。

調達プロセスでこの手法を用い、テスト用ガーメントで欠陥シミュレーションを何度も行います。これにより、調達チームは耐久性と価格の組み合わせを評価することが可能になり、最適な価格が設定されます。検証によって、より耐久性が高く長持ちすると評価された製品は、より優れた経済価値をもたらす環境負荷を軽減できるということが明らかにされます。

新しいライフサイクルコスト試算手法により、耐久性のある製品が最良の製品であることが明らかに

ゴアファブリクスのライフサイクルアセスメント調査は、高機能アウトドアジャケットが長持ちするほど、年間に与える環境負荷が軽減されることを示しています。

研究により、製品がもたらす環境負荷の要因が主に製造と流通段階で発生することが証明されたため、耐久性の高い衣料品をより長く使い続けることこそが環境負荷や年間コストの削減につながることが分かりました。



GORE® PYRAD®
ドイツ軍の戦闘服
は環境負荷と使用
コストの削減を毎
年実現していま
す。

ゴア社の製造拠点における環境活動: ELK MILLS V プラントISO14001認証取得

2018年、米国メリーランド州エルクトンにある当社の製造拠点Elk Mills V プラントは、総合的なエネルギー消費の削減に向けた様々な取り組みを進め、環境負荷を最小限に抑えるための国際的に認められたマネジメントプロセスであるISO14001の認証を取得することに成功しました。

既存の環境マネジメントシステムの外部審査・認証への申請は初めてでしたが、ISO規格に記載されているように、現地チームはすべての要求事項を満たすことに成功し、監査は成功しました。

ゴア社の製造拠点では、ISO14001の認証を取得するために、何をしていますか？

- ガスや電気エネルギーの使用や工場からの廃棄物など、重大な環境への影響を特定します。
- 持続可能なエネルギー削減を達成するために、エネルギー使用量を監視します。
- 温室効果ガスの排出による環境負荷を測定します。
- プロジェクトを追跡して進捗を示します。
- 当社の従業員、プロセス、工場、製品（4Ps）の環境パフォーマンスに関連するすべての法的要件を遵守すること。例えば、当社の環境法規制の基準を満たします。
- 作業管理に従います。すなわち、当社は化学物質の取り扱いと保管のための適切な手順に従うとともに、緊急時に対応できるよう従業員を訓練しています。

ISO14001



Elk Mills V プラント:ゴア社の生物物理学・熱・炎防御研究所の拠点

当社のElk Mills V プラントには、生物物理学・熱・火力保護研究所もあります。これらの最先端の設備により、当社の技術者は、制御された環境下での新しいゴアテックス プロダクトの性能を評価し、幅広い環境条件を再現することによって、衣服、活動、環境が人体に与える影響を予測することができます。

- 環境ルームは、地球表面の環境の95%までをシミュレーションすることができ、エベレストの極限的な低温環境から、デス・バレーの過酷な熱と太陽光、熱帯雨林の湿度まで、極端な条件を再現することができます。さらに、レインタワーは、スコットランドの軽い乾燥地帯から熱帯のモンスーンの降雨まで、現実に近い降雨率を再現することができます。
- 当社は、熱傷防止の3つの重要な要素である難燃性、断熱性、熱安定性を実現するため（主に特殊なプロフェッショナルユーザー向け）生地の性能を正確に測定し、分析することができます。

ゴア社の社会的責任ガイドライン（GSR）プログラムに関する重要な進歩

当社は、合法的かつ倫理的に誠実に事業を行うことを約束します。

広く認められている業界固有の基準に沿い、これらの価値基準を支持するために、ゴア社の社会的責任ガイドライン（以下、GSR）を「行動規範」として採択しました。

ケナン・アーセル（社会的責任エキスパート）へのインタビュー

GSRプログラムは何に焦点を当てていますか？

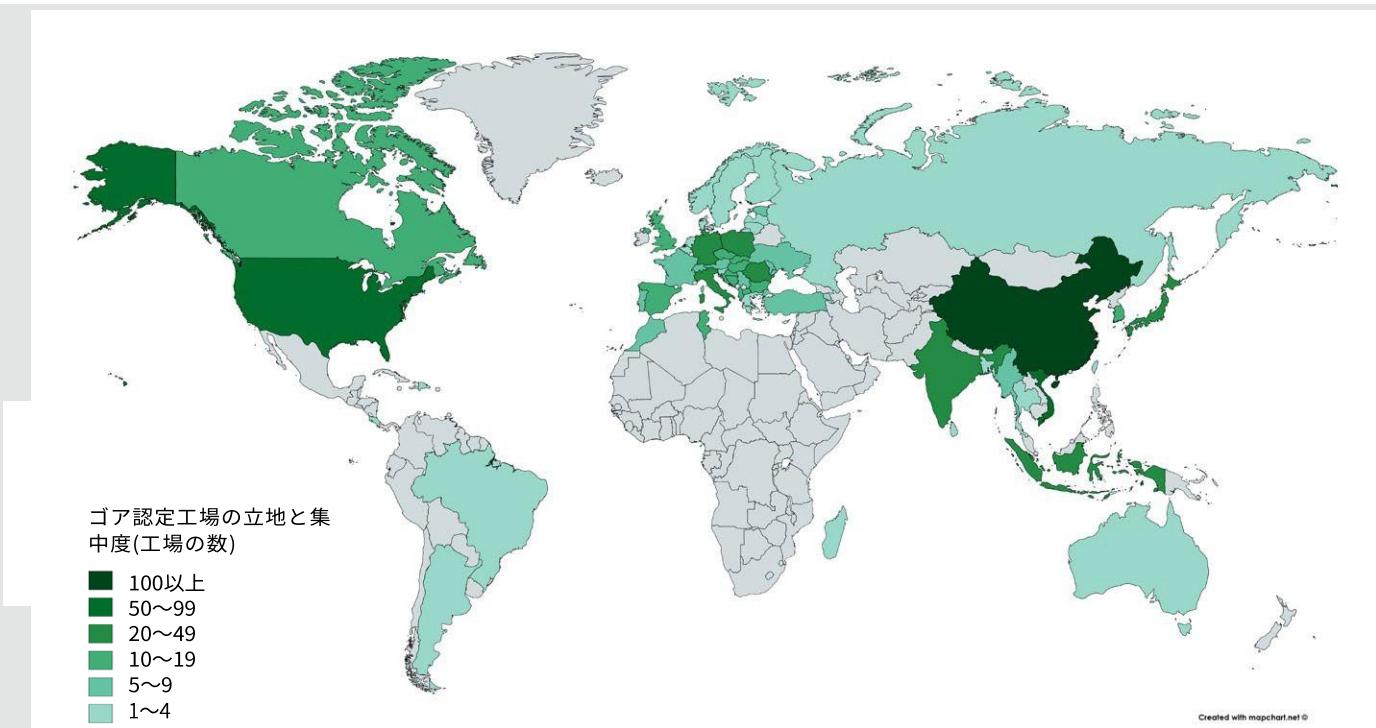
ケナン・アーセル：GSRは、ゴアファブリクスの生産、あるいは最終製品の生産に関与する人々が敬意と尊厳をもって扱われることを確保することを目的としたものです。これは、賃金と手当、労働時間、結社の自由、緊急時の準備などを含む、雇用のすべての分野における国内法及び国際慣行に従っています。

当社のGSRプログラムは、サプライチェーンの3つの異なるセグメントを対象としています。

- (1) 当社の自社工場と素材のサプライヤー
- (2) 当社が消費者へ直接販売する、自社ブランド品を生産するサプライヤー
- (3) 当社のお客様が製品を調達する工場



最初の2つのセグメントの生産拠点は比較的小規模ですが、当社の顧客は59カ国で800社近くのメーカーと取引を行っています（下図参照）。



世界中の幅広い生産者ネットワークの中で公正な労働慣行を守るためには、お取引先の協力が不可欠です。もちろん、トルコのシリア人移民労働者、バングラデシュでの火災と建築物の安全、ミャンマーでの児童労働、そして近年ではハンガリーでの残業補償など、課題がないわけではありません。

産業連携については、SLCP（Social & Labor Convergence Project）が2018年に中国とスリランカでツールと検証スキームを立ち上げたことを嬉しく思い期待しています。

これにより、アパレル・フットウェアのサプライチェーンにおける労働条件に関する重複した取り組みを減らし、透明性を高めることができると期待されます。

ゴア社は現在、主にどのような活動を行っていますか？

ケナン・アーセル：2018年の主な活動は、以下の通り分けられます。

(1) Higgインデックスは、2018年にHigg Facility Social & Labor Module (FSLM) という形で SLCP (Social & Labor Convergence Project) ツールを完全に採用しました。当社は、中国の製造工場でこの新しいツールを用いて自己評価プロセスを実施する準備を進めています。その後、認証を受けた第三者監査会社による第三者検証を受け、検証が可能になった時点で、他の国の当社の製造施設にも展開していきます。

(2) ゴア ファブリクスのランナーやバイカー向け的一般消費者向けブランド、GORE BIKE WEAR®、GORE RUNNING WEAR®は、2012年にFLA (フェア労働組合) の関連会社となりました。2017年には、FLA (フェア労働組合) 認定を取得し、最も高い評価を得ています。

(3) その後、認証を受けた第三者監査会社による第三者検証を受け、検証が可能になった時点で、他の国の中でもゴアの製造施設にも展開していきます。

2018年には、全ての一般消費者向けファブリクスのライセンサーと規範に関する連携を達成しました。つまり、何百社もの当社のカスタマーが当社の社会的責任ガイドライン (GSR) に署名、または当社の基準を満たす行動規範を提出したのです。また、特殊なプロフェッショナルユーザー向けテクニカルオリエンティッド ファブリクス (以下、TOF) のライセンサーを保護するためにアパレルを製造するビジネスパートナーにおいても、共通の目標に向けて大きく前進しました。



ゴア社の次のステップは何でしょうか。

ケナン・アーセル:一般消費者向けファブリクスの全てのカスタマーと基準において整合性の調整を達成したので、次のステップとして、それらの基準違反を特定し是正するために、健全なサプライヤー監視システムが備わっていることを確認します。中には高度な社会的コンプライアンス・プログラムを有している取引先もありますが、全ての取引先が同等の洗練されたリソースを有しているわけではありません。

そのため、2019年以降も必要に応じてカスタマーに方向性を示し、サステナブル・アパレル連合、公正労働組合、フェア・エア・ファンデーション、ベターワークなどの業界の取り組みに参画してもらうことで、課題解決に取り組んでいきます。

また、当社はTOFのビジネスパートナーと目指すゴールを共有していきます。いくつかの国においては、立法府の発案によって公共調達の意思決定の基準の中に、労働条件、環境への影響が含まれています。

当社のGSRプログラムは、法規制の変化への対応に役立つと考えています。労働リスクが顕在化しているサプライチェーンにおいて上流での社会的責任への取り組みを強化するため、カスタマーと協業する機会も模索していきます。

GSRは、以下のウェブサイトに掲載されています。

https://www.gore-tex.com/sites/default/files/assets/Gore-Fabrics_Guidelines_Social_Responsibility.pdf (英語)



2018年にボランティア活動に参加した従業員

ゴア社の従業員はバイエルンアルプスにおける「マウンテン・フォレスト・プロジェクト」を継続的に支援しています。

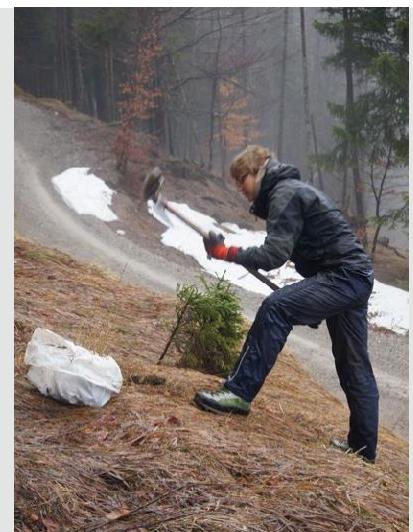
「ワーク・ライフ・バランス」プログラムの一環として、8年連続でドイツの従業員が非営利団体のベルグワルド・プロジェクトの支援に取り組みました。この保全グループはドイツでは大変有名で、「マウンテン・フォレスト・プロジェクト」でほぼ25年間にわたってバイエルンアルプスの森林道と木陰の修復に取り組んできました。2018年には、チャリティー活動の一環として、何千本もの若木が植樹され、数キロメートルに及ぶ森林道が敷設・改修されました。

2009年以降、当社は従業員の環境保全や自然保護への積極的な取り組みを推進しています。年に1回、従業員20名が専門のボランティアコーディネーターの指導のもと、4日間の業務プロジェクトに参加し、この組織の重要な取り組みを支援しています。

「マウンテン・フォレスト・プロジェクト」とは？

高山地帯の山林は、気候変動などの環境からの影響を大いに受けます。損傷を受けやすい保護的な区域が受けた損傷を修復するには、再植林費や人件費など多額のコストがかかります。多くの森林所有者や国有林業企業には、自ら修復作業を行う余裕がなく、修復作業は慈善団体のボランティアや専門家によって行われています。

森林地帯の修復と保護は、環境上の理由からも、また将来の世代の利益のためにも不可欠です。



「Bike-to-Work」：従業員が合わせて地球2.5周分の距離を自転車で走行し、1万ユーロを寄付

2018年、ドイツのゴア工場4拠点の従業員170人が「Bike-to-Work」に挑戦し、合計で地球2.5周分の距離に相当する約10万キロメートルを走行しました。

従業員が個人的にも環境負荷の軽減や健康増進を実現した一方で、当社は会社として走行距離1キロ当たり0.1ユーロを寄付することで彼らのモチベーションを高めました。「バイク・トゥ・ワーク」チームは、合計で約1万ユーロを集め、当社が拠点を置く地域の児童福祉施設に寄付しました。「Bike-to-Work」以降当社の従業員は2005年のプロジェクト開始以来75万キロメートル以上を走行し、これまでに合計7万5,000ユーロ以上を地域の慈善団体に寄付しました。





ゴアテックスアスリート ステファン・グロバツツ： 「正当な手段で」グリーンランドを横断

ドイツの登山家で現代の冒険家であるステファン・グロバツツは、ゴアテックスアスリートの人です。20年以上にわたり、彼の探検旅行には「正当な手段で」というスローガンが掲げられてきました。グロバツツの母国語であるドイツ語から訳すと、環境へ与える負荷を可能な限り低く抑え自然がもたらすチャレンジを楽しむことを意味します。

2018年夏、グロバツツは登山家のフィリップ・ハンスと写真家のトマス・ウルリッヒに加わり、新たな挑戦を開始しました。セーリング、スノーキッティング、ハイキングなど、さまざまなスポーツアクティビティを組み合わせ、チームはグリーンランドを沿岸部から沿岸部へと横断し、国内のビッグウォールのひとつをフリークライミングで制覇することを最終目標に掲げました。「正当な手段で」という姿勢を貫き、環境負荷を最小限に抑え、可能な限り環境に配慮した旅をしなければなりませんでした。

チームは、ミュンヘン近郊のスターンバーガー・シーにあるグロバツツの自宅から出発しました。その後、電気自動車でスコットランドに向かい、14メートルもの大きさの航海船「サンタマリア」でグリーンランドの西海岸に上陸し、冒険の本番が始まるまで27日間航行しました。

8月13日、グロバツツとチームは、1,000キロメートルのハイキングを開始しました。氷点下40度や激しい暴風雨の悪天候に見舞われ、チームおよびゴアテックス製品を含む装備には大きな負荷がかかりましたが、直面した状況に耐えることができました。しかし、35日間にわたる氷と雪の中のトレッкиングを経て、グロバツツとチームは無事にグリーンランドの東海岸に到着しました。

残念ながら、旅程の遅れや氷の状態のため、結局ビッグウォールを制覇することはできませんでした。一度の挑戦の後、チームは航海船「サンタマリア」に乗ってスコットランドに向かいました。10月初旬、ビッグウォールの制覇を達成することなく予定より遅れて電気自動車でミュンヘンへ戻りましたが、彼らのチャレンジや環境への配慮は大いに賞賛されました。

ステファン・グロバツツは次のように述べています。「自然を楽しみ、山にいることが好きです。ビッグウォールで新ルートを開拓することが、私の冒険の究極の目的です。しかし、自然の美しさを大切にし、環境負荷をできる限り低く抑えなければならないこともあります。現代の冒険者たちは『正当な手段で』世界を旅し、ゴアテックスプロダクトのような耐久性のある製品を使うべきです。」



ゴアテックスアスリート グレッグ・ヒル: 持続可能な冒険を求めて



ゴアテックスアスリートチームのメンバーであるスキー登山家のグレッグ・ヒルは、人とは違うことをすることで有名です。

彼は世界中の標高の高い山やバックカントリーに挑み、驚異的な記録を打ち立ててきました。トレーリランニング、登山、サイクリングなど、スキー以外のアドベンチャースポーツにも意欲的でありながら、映像作家、講演者、父親、環境活動家でもあります。

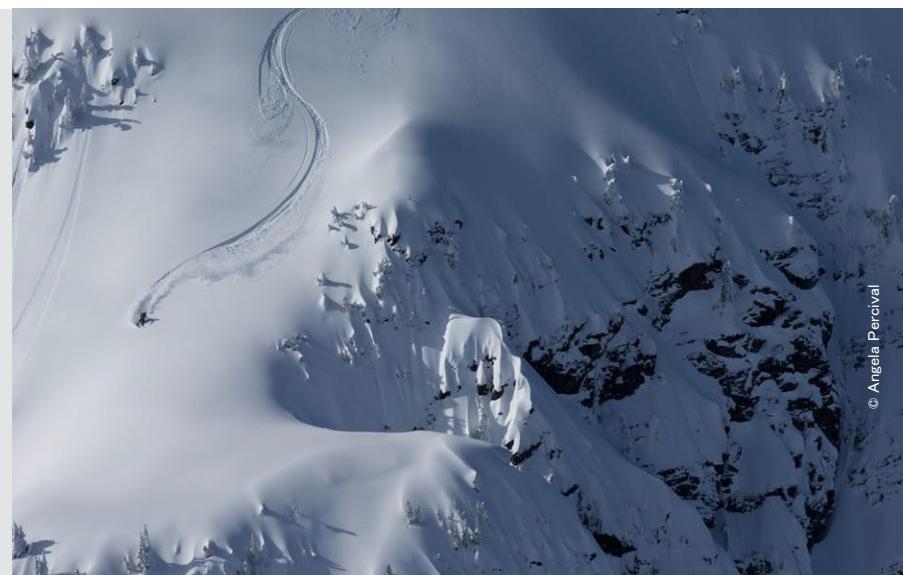
グレッグ・ヒルへのインタビュー

サステナビリティとは、私生活の中で何を意味しますか？

グレッグ・ヒル: 私は常に地球の住人として生きることを愛し信じてきましたし、アウトドアを愛することは、すなわちよく生きることだと考えてきました。長年にわたって、大きなトラックで登山道まで向かっては、スノーモービルで山中に飛び込んできたものです。スキーソーアや自然を楽しみ、そりと大型トラックで家へ帰ったものでした。こういった自然に対する偽善的なアプローチは、私の良心に重くのしかかってきました。2人の我が子に何を教えてしまっているのだろうと疑問が湧いてきました。私は二酸化炭素排出量を計算し、自分が環境に高い負荷を与えていていることに大きな衝撃を受けました。私は自分が変わるべきだと気づいたのです。完璧であることはできないとしても、少なくとも前進すべきであると。そこからの道のりは満足できるものとなり、私は大きな結果につながっていく、取り組みやすい改善点を探しています。地元ができるだけ多くの食べ物を調達し、肉を減らし、自分のライフスタイルを見つめ、できる限りのことをすべて理的に考えています。完璧を求めたら、森の中のキャビンに住み、土地を離れて暮らす必要がありますが、これは現実的ではありません。その代わりに、より良い方法を模索し、自ら発信することで他者に影響を与え、変化を促すことができます。

なぜゴア社と協力しているのでしょうか？

グレッグ・ヒル: ゴアテックスファブリクスは、最高のプロテクションであり、ドライで温かい状態を保つため、安心して冒険に集中することができます。ゴア社はまた、自らの環境への影響を懸念しており、改善に向けて努力しています。工場の環境負荷から製品の製造工程が与える全体的な影響に至るまで、ゴア社は素材の製造方法における改善に精力的に取り組んでいます。



現在のプロジェクトについて、またそこから何を学んでいますか？

グレッグ・ヒル：遙か遠くの山頂を目指して何年もの間世界中を飛び回った後、さらに持続可能な冒険に目を向けようとしています。そのための第一歩は、より身近な課題に意識を向けることです。大型トラックやスノーモービルを売って電気自動車を所有するようになり、環境負荷を大幅に減らすことができました。私のチャレンジは、100の山を電力で登頂して、冒険には様々な方法があることや、我々ひとりひとりが自らの役割を果たせることを証明することです。この1年半の間に、カリフォルニアからワシントン、ブリティッシュコロンビア、アルバータまで、60の山々に登りました。スキー、登山、マウンテンバイクなどで、これらの山々に登頂してきました。このチャレンジの間に、私のライフスタイルも向上し、環境負荷を半減することができました。インフルエンサーとして、これは他者に変化を促す本当にすばらしい方法です。



W. L. Gore & Associates (ゴア) について

ゴアは、業界に変革をもたらすことで人々の生活の向上に全力を尽くしている、技術主導型の企業です。1958年の創業以来、私たちは要求レベルの高い環境における複雑な技術的課題を解決する企業として、その評判を築いてきました。— GORE-TEX ファブリクスでアウターウエア業界に革命を起こしたのをはじめ、生活を改善し命を救う医療機器の開発、また航空宇宙、医薬品、モバイルエレクトロニクス、その他多くの分野で新たなレベルのパフォーマンスの実現に寄与してきました。

またゴアは、チームワークを大切にする企業文化を持つことで知られており、Great Place to Work® Instituteから継続的に評価されています。デラウェア州ニューアークに本社を置き、約9500人のアソシエートを擁し、年間売上は30億ドルを超えてます。詳細は、www.gore.comをご参照ください。